新学部長に聞く

任期満了に伴う3学部の学部長選が各学部教授会で行われた。法学部長に森川幸一教授、ネットワーク情報学部長に松永賢次教授が選出された。

リーガルマインド育む
神田3学部で相乗効果を

森川（もりかわ）幸一（こういち）　法学部長

法学部の教育はリーガルマインド（法的思考）を育てることを目的としています。法律学や政治学を学ぶことを通じて、社会が公正・円滑に運営され、人々の幸福が実現されるための「人類の叡智（えいち）」を獲得することが、リーガルマインドを育むことだと言えます。

私の専門は国際法。人種・民族・宗教などを異にする人々が国際社会で共存していくためのルールや、紛争の平和的解決の方法を学ぶ学問です。学生には物事を多面的・客観的に考える姿勢を身につけるよう指導しています。一方的な情報に流されることなく、自分の力で物事を考え解決できる能力を身につけた社会人になってほしいのです。

私自身は法学部に入った当初、法律学に専念していたわけではありません。教養課程で触れた幅広い分野の本を読むことで文学や美術に興味が湧き、一時は転部も考えたほどです。しかし法律学を専門的に学ぶうちに、法律についての見方が変わり、その背後にある社会の仕組みが少しずつ見えてくるようになった。当初は面白くなかった法律学の面白さが分かるようになってきたのです。

本学でもゼミなどを通じて学ぶことの面白さに目覚める学生がたくさんいます。法学部で勉強することで混沌（こんとん）とした社会が見えてくる、そういう喜びを感じてほしい。「専大で4年間学べてよかった」という学生を一人でも多く育てることがわれわれの仕事です。そのためにソフト面、ハード面の整備を進めていきます。

律学科ではカリキュラム改正の準備を進めています。主体的に将来のキャリアに結びつく、きめ細かい履修モデルを提供する計画です。進路先によっては商学部で取りたい科目もあるでしょうし、国際関係に興味がある学生もいるでしょう。そこで商学部や新学部の科目も取れるよう、逆に法学部の科目を他学部に提供できるよう、調整を進めていきます。新しい法学部、そして神田キャンパスの姿が、間もなく現れてくることでしょう。

2020年、商学部の移転と国際系新学部の設置が予定されています。法学部は、神田3学部体制がうまく立ち上がり、相乗効果を生むために、力を尽くしていきます。

2020年に向け、法学部の教育はリーガルマインドを育てることを目的としています。法律学や政治学を学ぶことを通じて、社会が公正・円滑に運営され、人々の幸福が実現する人々が国際社会で共存していくためのルールや、紛争の平和的解決の方法を学ぶ学問です。学生には物事を多面的・客観的に考える姿勢を身につけるよう指導しています。一方的な情報に流されることなく、自分の力で物事を考え解決できる能力を身につけた社会人になってほしいのです。

私自身は法学部に入った当初、法律学に専念していたわけではありません。教養課程で触れた幅広い分野の本を読むことで文学や美術に興味が湧き、一時は転部も考えたほどです。しかし法律学を専門的に学ぶうちに、法律についての見方が変わり、その背後にある社会の仕組みが少しずつ見えてくるようになった。当初は面白くなかった法律学の面白さが分かるようになってきたのです。

本学でもゼミなどを通じて学ぶことの面白さに目覚める学生がたくさんいます。法学部で勉強することで混沌（こんとん）とした社会が見えてくる、そういう喜びを感じてほしい。「専大で4年間学べてよかった」という学生を一人でも多く育てることがわれわれの仕事です。そのためにソフト面、ハード面の整備を進めていきます。

2020年に向け、法律学科ではカリキュラム改正の準備を進めています。主体的に将来のキャリアに結びつく、きめ細かい履修モデルを提供する計画です。進路先によっては商学部で取りたい科目もあるでしょうし、国際関係に興味がある学生もいるでしょう。そこで商学部や新学部の科目も取れるよう、逆に法学部の科目を他学部に提供できるよう、調整を進めていきます。新しい法学部、そして神田キャンパスの姿が、間もなく現れてくることでしょう。

【略歴】1980年、東京大学法学部卒。88年本学法学部講師。助教授を経て98年同教授。2015～17年法学研究所長。趣味は美術鑑賞、アンティークコインの収集。影響を受けた本の一つは本学名誉教授の故内田義彦先生の『読書と社会科学』。「社会を見るための道具としての『概念』の大切さを教えてもらいました」。熊本県出身。60歳。

人と社会を視野に学ぶ
幅広い問題解決力を養う

松永（まつなが）賢次（けんじ）　ネットワーク情報学部長

開設17年目になる専修大学のネットワーク情報学部は、単に情報に関する理論を習得するところではありません。情報と情報を結ぶ人、人が構成する社会を視野に置いて学ぶ学部です。「文脈」で理解し、幅広い視点で物事を解決する力を養っています。

そこから経営の視点を持った技術者や、ビジネスをデザイン（構想）するスペシャリストが生まれます。「文理融合」を生かす学部として、理工系大学の同様学部とは一味違うところであると自負しています。

こういった特長を生かし、教員が取り組みたいことを支えられるよう組織を活性化していきたいと考えています。

学修の中心は、豊富な演習科目にあります。とりわけ成果を上げてきたのは、3年次の必修科目「プロジェクト」です。2年次までに培ってきた力を発揮し、課題の研究や作品制作にグループで挑みます。話し合いを重ねアイデアを出し合い、集約することで技術や知識だけではなく、コミュニケーション力、幅広く考える力、マネジメント力が育まれます。我々教員も一緒に体験することで、学生から教えられることがたくさんあります。

社会で活躍する卒業生や、上級生が体験を話す場もあります。「情報と社会」や「情報キャリアデザイン」などは、自らのキャリアを意識して学修に取り組むきっかけになっています。また、教室をみ出していったらよいかが分からない時は、遠慮なく教員の研究室のドアを飛び出してプログラミングなど学外の競技会やコンテストなどへの参加もたいへんです。

学生諸君には、主体的に学ぶことを心掛けてほしいです。やりたいことがあるが、どのように踏んだことが二つあり、それは実社会で生きています。一つは、考える力をつけるということ。もう一つは、どんなに一生懸命やってもミスをすること。失敗を受け止め、自分の力を客観的に知り謙虚になれるかどうかが極めて大切だと思っています。

私は学生時代、将棋部で盤上の駒に熱中していました。実戦で負けると非常に悔しいので今は観戦専門ですが、将棋で学んだことが二つあり、それは実社会で生きています。一つは、考える力をつけるということ。もう一つは、どんなに一生懸命やってもミスをすること。失敗を受け止め、自分の力を客観的に知り謙虚になれるかどうかが極めて大切だと思っています。

【略歴】1994年慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程単位取得退学。95年本学経営学部講師。2001年所属変更によりネットワーク情報学部。12年同教授。17年情報科学センター長。専門は、プログラミング、ネットワーク情報システム。将棋観戦のほかサッカー、バレーボールなどのスポーツ観戦が息抜き。東京都出身。53歳。

ソーシャル・ビジネス　可能性探る
大学院公開講座スタート

専修大学大学院公開講座「ソーシャル・ビジネスの現状と可能性」（全6回）が神田キャンパスで開講されている。毎回、ソーシャル・ビジネスの第一線で活躍する専門家を講師として招き、講演と本学教員とのディスカッションによりソーシャル・ビジネスの可能性を探る。7月7日に第1回、同27日に第2回が行われ、多くの学生や一般の方々が聴講した。

専修大学では2008～16年度に「KS（川崎・専修）ソーシャル・ビジネス・アカデミー」「KSコミュニティ・ビジネス・アカデミー」を開講。ソーシャル・ビジネスの担い手の育成と、調査・研究を進めてきた。今講座で研究の深化を目指す。

125人が来場した第1回は「成熟社会に求められるソーシャルビジネス・ネットワーク」と題し、三菱総合研究所理事長でプラチナ構想ネットワーク会長の小宮山宏氏が講演した。

嵯峨生馬経済学研究科客員教授の「超高齢社会に突入した日本では、社会参加をキーワードに、それぞれの立場で社会貢献できる形をデザインする必要があるのでは」との問題提起を受け、小宮山氏は日本が目指す未来像としてプラチナ社会を提案。「事業が経済として成り立つ状況を作ることが大切」と述べ、環境、エネルギー、医療、地方創生といった日本が抱える課題に新たなビジネスがあると指摘。小宮山氏は「日本は転換期を迎えており、私たち自身の発想の転換が必要だ」とまとめた。

第2回は一般社団法人ソーシャルプロダクツ普及推進協会専務理事・事務局長の中間大維氏と神原理商学部教授が登壇。生活者が社会貢献できる商品・サービス「ソーシャルプロダクツ」について意見を交わした。

第3回以降の講座は次の通り。▽第3回　10月19日（木）「企業のCSV戦略と地域貢献」▽第4回　11月16日（木）「企業人とワークライフバランス」▽第5回　11月30日（木）「買い物弱者問題の解明と展望」▽第6回　12月中。いずれも18時30分から、神田キャンパス731教室。問い合わせは大学院事務課☎03・3265・6568

小宮山氏の講演を学生たちが熱心に聴いた（第1回講義）

八王子桑志高校と教育課程連携協定
ネットワーク情報学部

ネットワーク情報学部は7月、東京都八王子桑志高校産業科（システム情報分野・ビジネス情報分野）と教育課程指定連携に関する協定を結んだ。

この協定は、ネットワーク情報学部と八王子桑志高校の教育課程の連携を通じて、相互の教育内容の理解を深め、大学教育と高校教育の接続や活性化を目的とする。ネットワーク情報学部が同様の協定を結ぶのは5校目。

教育課程連携プログラムを実施するほか、2018年度入試から教育課程指定連携型推薦入試を実施する。

訃報

庭山英雄氏（にわやま・ひでお）元法学部教授

7月11日、88歳で死去。1991年から1999年まで在職。専門は刑事訴訟法。

田島俊雄氏（たじま・としお）名誉教授・元経営学部教授

8月2日、88歳で死去。1965年から1999年まで在職。専門は英語。

鈴木啓三氏（すずき・けいぞう）名誉教授・元経営学部教授

8月4日、81歳で死去。1964年から2006年まで在職。専門は健康科学論。レスリング部の監督、部長を務めた。

上原秀明氏（うえはら・ひであき）文学部教授

9月3日、67歳で死去。2000年入職。主な担当は、歴史環境学。